

ANNUAL REPORT 2017

JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL OSAKA



<http://www.osaka-jc.or.jp/>

JCI 大阪

検索

JCI OSAKA

ANNUAL REPORT 2017





大阪を、動かせ。



まちの
未来を、



人の
エネルギーを、



明日を切り拓く
力を創出し、

大阪を、日本を、 世界を、 動かしていく。

世の中が大きく変わろうとしている今、この瞬間。

私たち大阪青年会議所は、まちの未来を思い描き、無限の価値を生み出す変革に挑戦し続けよう。

人の力の偉大さを尊び、その秘めたエネルギーの大きさを伝え、育み、融合させて、
輝ける未来への力へと進化させよう。

大阪に志ある「創力」をあふれさせ、「民の力」で、大阪を、日本を、世界を、良い方向へと動かしていく。



マチミラ

MACHI MIRA OSAKA 2017

Creating the Future

大阪が創る未来がココにある。

独創的な発想を持って未来を創造する人々が一堂に会し、
様々な価値観が融合しつながることで、
まちが持続的に発展する新たな仕組みづくりのきっかけを創出しよう。

2017年9月2日(土)、3日(日)、大阪青年会議所主催によるイベント
「マチミラOSAKA 2017～ Creating the Future～」を開催しました。
2017年度のテーマである「創力あふれるまち、大阪の実現」を掲げ、
大阪のソフトパワー(人の力)や大阪の企業が持つ先進技術の体感、
AI・IoTなど最新の技術、音楽が持つ力、
さらには子どもの夢を創り出すプログラムを通じて、大阪のまちの魅力を発信。
2日間で14,000人を動員したビッグイベントは、
大阪の明るい社会の実現に向けたワンステップとなりました。

やってみなカフェ

4～7月に大阪市各5ブロックで開催された、まちづくり意見交換会「やってみなカフェ」。市民の皆さんで身近な課題、その解決策を考える参加型ワークショップで、「魅力あるまち大阪の実現に向けて」をテーマに導いた課題解決策や事業案を発表しました。



世界を変えるビジネス モデルコンテスト

大阪青年会議所の起業家育成プログラム「Global Academy Osaka = GAO」。先端技術を駆使したビジネスモデルの立案に取り組んできた受講生達の集大成として、「大阪から世界を変えるビジネスモデル」をコンテスト形式で発表しました。



コラボレーション イベント

大阪を拠点に活躍する若者同士によるコラボレーション企画を実施。同世代で一つの目的を成し遂げるものの達成感や、同世代のつながりが生み出す力を実感することで、共に社会を創りあげていく原動力が生まれることを発信しました。



キッズバイクレース/ ドローンレース

大阪の2～6才の元気な子どもたち278名が参加して、会場内の特設周回コースでグランプリの大阪市長杯を競い合うキッズバイクレース「LAGPキッズバイク JCI大阪市長杯2017inうめきた」を開催。また今後各方面での活躍が期待されるドローンを使用したレースも実施。10～40代までの幅広い参加者がVRを装着し的確に操縦する大迫力のレースは観衆を惹きつけました。



Konamon Festa

たこ焼きはもちろん、焼きそば、ドーナツまで。日本に限らず世界の「粉もん」が大集結。「食は世界をつなぐ」と考え、大阪の粉もん文化とアジアの粉もん文化(パッタイ、バインセオ、生春巻など)を食べる場を開催しました。





大阪市長

吉村 洋文 氏
HIROFUMI YOSHIMURA

2025年万博、総合型IRは、大阪の魅力を世界に発信する起爆剤。「人の力」は「まちの力」。青年経済人としての皆さんの若い力に期待します。

今、大阪は、非常に大事な分岐点に立たされていると感じています。戦前までの東京・大阪の二極から、戦後の東京一極集中へと進んだ結果、大阪で育った大きな企業がどんどん東京へ流れて行き、大阪の衰退が進みました。そこで大阪市としてもどうすれば大阪を復権させる事ができるかと考え、「大阪を動かす」ために様々な策を打って来ました。

この点で、2025年の関西・大阪万博を誘致できれば、大阪の魅力を世界に発信する大きな起爆剤になると確信しています。この誘致

活動の盛り上げの点で、大阪青年会議所の皆さんがさまざまな活動を通じて果たして来られた役割には大変感謝しています。誘致の可否は今年の秋、決定します。いよいよこれからが正念場です。皆さんと一緒に是非実現に向け邁進してまいりましょう。

一方、経済面で「大阪を動かす」ための別の施策として総合型リゾートIRの実現も極めて重要と考えています。大阪の夢洲にある甲子園球場100個分という広大な土地に、世界にもここしか無いというようなIRを作ることで、雇用創出、税収増、地域の産業活性化など、大阪の経済発展が実現するはずで。きっとその頃には湾岸エリアの景色が大きく変わっていることでしょう。

時代はこれから誰もが経験したことのない少子高齢化となります。そんな中でどうやってこの国や大阪を豊かにしていくか考えた時には、やはり「人の力」が「まちの力」になると思っています。その面で子供たちの未来のためになる政策を実行していきたい!それが私の方針です。たとえば幼児教育の無償化をはじめ、所得格差が教育格差にならないよう、能力のある努力する子供はどんどん押し上げて行きたい。他の都市では見ないような子供の貧困対策を行うことで循環型の社会を実現させ、子供が自分の可能性を追求していける強い社会を作っていけると考えています。

私はまだ42歳で、大阪市長としては若いねとよく言われますが、世界の首脳 G7の7人の内3人が40代なんです。逆に40代が中心になって日本の政治経済を担っていかなければならないと感じています。さらに若き20～30代が経済を引っ張らないと大阪は良くならないですよ!是非、青年経済人としての皆さんの若い力をますます発揮して、一緒に大阪を世界に誇る魅力的な街に変えていきましょう。よろしく願い致します。



大阪府立大学特別教授
21世紀科学研究機構教授
観光産業戦略研究所所長
大阪府特別顧問
大阪市特別顧問
大阪府立大学研究推進機構教授
大阪府立大学観光産業戦略研究所所長
大阪青年会議所顧問

橋爪 紳也 氏
SHINYA HASHIZUME

「大阪を動かす」トリガーは、2025年万博誘致の成功。JCならではの政策提言と実践で、「都市間競争」を勝ち抜く躍動する都市・大阪の実現を。

「大阪を動かす」ためには、大阪の活性化に向けた総意を喚起する夢のあるプロジェクト群が必要です。トリガーとなる事業が、私が当初より構想立案に参画した2025年関西・大阪万博の実現です。この万博では、ソサイエティ5.0の技術を活用した近未来の社会と都市のモデルを会場となる大阪のベイエリアに構築。IoTやAIなど時代の先端をゆくテクノロジーの社会実験が展開されることになります。誘致に成功すれば、関西および大阪が、ライフサイエンスの研究開発や産業化における先進地であることを世界に示すとともに国際観光を促進。大阪を拠点に関西全域に多くの人が流動するで



建築家
東京大学特別栄誉教授

安藤 忠雄 氏
TADAO ANDO

2025年万博は「モノ」から「コト」へ。経済力によらない世界からの信用獲得の場に。失敗を恐れず、力を合わせ、子どもたちが世界に誇れる大阪を未来へ引き継ぐ。

私が最近感じるのは、日本人の「好奇心」が衰えてきているということです。戦後、物質的には何もかも失った日本を建て直そうと、人も企業も頑張った。あらゆるモノに対する好奇心があり、日本の経済力は急速に立ち直り、1964年には東京オリンピックが開かれました。しかし、この頃から実は好奇心は衰えてきていると私は思っています。そして今はもう物質的なものへの好奇心は満たされていてしまっています。あの70年万博は大成功しましたが、それは大阪と日本の経済力に対する信用づくりの場でした。しかし今は大阪の経済を誇ったところで、それは世界の信用

にはならない。経済力が信用になる時代ではないからです。一方、たとえばiPSの山中伸弥教授を生んだ大阪は世界の信用につながる。そういう意味で新しい可能性を生み出す知的好奇心は大切です。

そういう観点から、2025年の関西・大阪万博は「モノ」から「コト」へシフトしなければならない。たとえば「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマの根幹は、健康。この点、医学によって支えられる健康も大事ですが、環境やライフスタイル、知的好奇心によって人間自ら生み出し維持する健康も大事です。ですからこの万博は、生命や地球のことも含め人間の未来の生き方に対する可能性を示す場となり、そういう未来を提唱する大阪の知的創造力を世界が信用する場となるべきだと思います。

私は昨年、中之島に子どもたちのための図書館「こども本の森中之島(仮称)」を建設して大阪市に寄贈すると、大阪市の吉村市長と名誉館長をお願いしている京大の山中伸弥教授と共同の記者会見を開き発表しました。「本を読んで誇りある子どもを育てたい」。それが私の考えです。私の仕事のエネルギーの源泉は「誇り」です。御堂筋や中央公会堂、名だたる企業群という素晴らしい財産を残した大阪に生まれ育った誇り。これが私が大阪で仕事を続けている理由です。大阪は手塚治虫という素晴らしい人材も生み出しました。一方で「鉄腕アトム」を生み出し、もう一方で「ジャングル大帝」を描く。この発想は一体どこから来るのか。手塚さんは阪大医学部出身で、人間の体という現実を踏まえて想像するサイエンティストです。御堂筋を生み出し、こういう人を生み出した大阪という街を将来も子どもたちが誇れるように、JCの皆さんには是非力を合わせて頑張って頂きたい。まず自分を信じ、社会に必要なものは何かを考えて行動する。失敗を恐れることはない。失敗したら考えればいい。そうすれば答が見つかる。それから全力投球していけば、そこに道は必ず開けます。



第31回「人間力大賞」グランプリ
認定NPO法人Homedoor
理事長

川口 加奈 氏
KANA KAWAGUCHI

皆さんの後押しで「人間力大賞」を受賞できた2017年でした。これからも誰かが何かを変えようと挑戦する時、思いっきり後押しし、そして自ら行動する人となってください。

「大阪を動かす」ためには、市民一人一人が当事者として、問題意識を持ったらそのままにせず、問題を解決するために活動することが大切だと思います。「ほっといたら、誰かがやってくれる」—そんな思いは捨て、自分ごととして動く必要があると思います。

大阪青年会議所の皆様に今後も期待したいことは、誰かが何かを変えようと挑戦する時、思いっきり後押しをすること、もしくは、自らが

しょう。一方で人類の叡智を集める国際博覧会は、実践的な「教育」の場でもあります。次代の関西を担うべき優秀な人材がイベントを契機に世界に飛躍し、大阪が国際化をはかる契機となるでしょう。

もっとも、万博の誘致活動は、あくまでも大阪を動かすうえで不可欠な意識改革の契機でしかありません。この面で、大阪青年会議所でしかできない政策提言、そして実践を期待しています。大阪青年会議所は、実に多様な職種、技能、専門性を持った優れた人材の宝庫です。多様な価値観と才能が交流を果たすなかで、これまで誰も提案していないような斬新なアイデア、柔軟な発想が生み出されます。

1920年代、大阪は世界第5位の人口規模を誇り、かつてない繁栄を謳歌しました。先人たちは、同時代の最先端を行く取組を大阪流にアレンジすることで、独自の産業と文化を創造。市民は故郷を誇らしげに、また他都市の人たちは憧れをもって、東洋一の商工都市となった大阪を「大大阪」と呼びました。大阪青年会議所の皆さんにも同様の気概を持っていただき、先例に学ぶだけではなく先例をいかに超えるのかを考え、大阪を新しい魅力溢れる都市にリノベーションしていただきたいと思います。

今日、世界の大都市では「都市間競争」を意識しつつ、活力を高める都市再生のプロジェクトが具体化しています。大阪も都市間競争の時代を勝ち抜き、魅力ある都市として持続的に成長しなければなりません。そのためにはビジョンが必要です。世界の中で、どのような領域にあって突出した都市として大阪が存在感を示していくべきなのか。大阪青年会議所の皆さんには、実践を重ねつつ、将来のあるべき都市像を示していただければと存じます。

ご一緒に、大阪をいまいちど、若々しく、躍動する都市へと転じさせましょう。

行動する人となることです。

2017年は、大阪青年会議所の皆様から推薦をいただいたおかげで「人間力大賞」を受賞することができた年でした。応援いただいた皆様、ありがとうございました。私自身、学生時代にPCY事業に参加したことも起業のきっかけの一つなので、大阪青年会議所の皆様にはこれからも、様々な事業を通じて、大阪を動かしていく人材を創出していただくことに期待しています。



2017年度・第31回「人間力大賞」で、川口加奈氏トリプル受賞に輝く!

公益社団法人日本青年会議所が主催する青年版国民栄誉賞・第31回「人間力大賞」において、グランプリである「人間力大賞」と「内閣総理大臣賞」を受賞した川口加奈氏。加えて「参議院議員議長奨励賞」も受賞し、トリプル受賞の栄冠に輝きました。



川口氏は大阪青年会議所の継続事業であるPCY事業の第1期生であり、「大阪変革塾」の講師も務めて頂いた、大阪青年会議所の期待の星。今は社会の第一線で、大阪を動かす活動の先頭に立って活躍しておられます。

The Eternal Values

私たちは、自らを取り巻く、家族や人びと、私たちの住み暮らし働くこのまち、この国、そしてこの世界との繋がりを大切に思い、心のよりどころとして、“公(こう)” “敬(けい)” “創(そう)”という不変の価値観を、大阪のまちに住み暮らし働くすべての人びとの心に灯し、繋げていくことこそが、新たな時代に承継すべき私たちの責務であると位置付けるとともに、“公(こう)” “敬(けい)” “創(そう)”を社団法人大阪青年会議所の三理念とし、地域に根差す社会的な民間運動団体の中核としての役割を担っていきます。

＜ 不変の価値観 ＞



「こう」の精神

Proactive

自らのためだけでなく、身近な問題から世界で起きている問題まで、すべて切り離して考えるものではなく、自分たちの一部であるという自覚のもと、他の人びと、家族、まち、国など社会のために尽くすことを私たちは“公”と位置付けます。時代に応じた“公”は、すべての人びとが大切にしなければならないものであり、それをひとり一人に灯し続けることが、私たち青年に与えられた意義ある大きな使命であり、個人の座標軸が定まらなく混沌とした現在、灯すべき“不変の価値観”は、他者のために己の魂を燃やし続けて、己が属する家族、地域、社会そして未来に貢献する強い気概を有することです。



「けい」の精神

Respect

江戸時代より以前、私たちの先人は、人や食糧、水、自然や先祖に対する畏敬の念や、日本古来の習わしとして八百万の神々を敬うことを忘れることはありませんでした。自分だけで生きているのではなく、先人や自然、世界中や世の中との繋がりの中で生かされているという“敬”という心情を忘れてはなりません。私たちの生活が、家族や仲間、自然の恵み、先人から受け継いだ知恵、世界中との繋がりがなどの森羅万象によって成り立っていることに感謝し、想像力をもってあらゆるものへ思いを馳せる精神が、これから先にも忘れてはならない“敬(けい)”の精神です。



「そう」の精神

Creation

合理的で自由闊達、柔軟な発想を持ち合わせた私たち大阪人の“創(そう)”の精神には、堂島米会所や、江戸時代の町人によって橋が架けられ維持管理されてきたという、「官を支えて官に頼らず」という自治都市としての歴史があります。大阪における地域や社会、国家のビジョンを掲げ、人やまちを育んできた私たち社団法人大阪青年会議所は、あらゆる価値の根源として、混沌とした未知の可能性を具体的に切り拓くために、自由闊達、柔軟な発想で、誰も成しえなかった新たなチャレンジを続け、“創”の精神を率先して体現していきます。

創力あふれるまち、 大阪の実現

いかにITやAIが進歩しようとも、未来に想いを馳せ志へと変えて未来を創り出すのは、人の力であるソフトパワーに他なりません。

人口構造の変化と人口減少が加速度的に迫りくるわが国日本、そしてグローバル化の中で頻発するテロや世界経済のボーダレス化、これらを乗り越えて次代に未来を贈り継いでいくために、今を生きる私たちの「創力」の結集が求められているのです。

66年の間、絶えず未来を見据えまちとともに歩んできた私たち大阪青年会議所は、いつの時代もここ大阪の未来を拓いてきたソフトパワーを見出して育み、融合させる起点とならなければなりません。

無限の価値を生み出し続ける未来を後世へと贈り継ぐべき私たちは、現在の価値に捉われない大局観を備え、未知を恐れず多様性をありのままに受け止め、成り立ちへの誇りと未来への志を抱き、情熱をまちの未来への変革に挑み続ける行動力へと昇華させる、「創力」あふれるまち大阪を実現します。



大阪のまちを、動かせ。

今、大阪というまちは時代の岐路に立たされています。振り返れば大阪は、多様性に対する寛容性とおおらかな気質を備え、独自の発想で世界に先駆けて多くのものを創り出し、力を集約して課題に立ち向かい、民の力が創り上げてきました。こうした成り立ちを活かし、アジアの文化、情報、人、そしてビジネスの玄関口として中核的役割を担うアジアのハブ都市こそ、大阪が目指すべき未来のまちの姿です。私たちは、自らのまちの誇りを胸に秘め、一人ひとりがまちの未来を創り出す力を発揮し、連携し、全員参加で唯一無二のまちの魅力をあふれさせ、大阪のまちを持続的に発展させるつながりを構築します。



**2025年日本万国博覧会
(OSAKA-KANSAI JAPAN EXPO 2025)
オフィシャルパートナーとして、
「マチミラ OSAKA 2017」で、
松井一郎大阪府知事 vs
橋爪紳也大阪府立大学特別教授
による万博誘致活動の一環としての
パネルディスカッションを開催。**

大阪青年会議所では、2017年度、2025年日本万国博覧会の実現に向けて、オフィシャルパートナーとして、積極的に誘致活動に取り組んで来しました。その一環として、9月2日(土)・3日(日)の2日間、グランフロント大阪に隣接する北ヤード特設会場で開催したイベント「マチミラ OSAKA 2017」では、大阪府万博誘致室の皆さんにもご協力いただき、約14000人の来場者に向けて、誘致のための署名活動を展開しました。さらには、松井一郎大阪府知事と大阪府立大学特別教授の

橋爪紳也先生による万博誘致のためのパネルディスカッションを開き、万博誘致の実現がいかにこれからの大阪の未来を切り開く起爆剤となるかについて、ご対談頂きました。万博誘致活動の推進はまた、巨大都市・大阪の必要課題の発見、そして大阪市民が一体となる契機となります。晴れて誘致が実現すれば、大阪のみならず、日本の未来に向けてのさらなる発展につながります。大阪青年会議所では、この秋の開催決定に向け、引き続きメンバー一丸となって万博誘致活動に邁進して参ります。



りそな総合研究所 リージョナルビジネス部長

藤原 明氏

AKIRA FUJIWARA

まちづくり意見交換会 「やってみなカフェ」に携わって

大阪青年会議所都市創力発信委員会さんから「東・西・南・北・中央5ブロック・1回あたり3時間・3回ずつのワークショップを開催し、地域の方々に地域課題解決のための事業案を検討・具現化していただきたい!」という相談を受けた時は、正直「魅力あるまち大阪の実現に向けて～アジアのハブ都市大阪に発展するには～」というテーマは壮大すぎて、たった3回の議論ではまとまるものもまとまらないと感じました。しかし、いざワークショップが始まると、参加者の皆さんの前向きで、プロセスをしっかり辿りながらの活発な議論が繰り広げられ、5ブロックで計21案の事業案が産まれました。最終的には9月2日のマチミラOSAKAで、各ブロックの「地に足のついた」選抜事業案の素晴らしいプレゼンテーションとして結実。全てのワークショップに関わらせていただいた者として大きな感動を覚えるとともに、当日の発表案だけでなく、策定された事業案について、1つでも多くの案がカタチになってほしいと強く強く願いました。なぜなら、「やってみなカフェ」は実施することが目的ではなく、「はじまりのはじまりをいっしょにつくる」という、きっかけづくりの場だったのですから。

大阪のまちのために。【2017年度活動報告】

存在感のある大阪を実現するためには、新しい都市づくりが必要です。
自分たちのまちの未来は自分たちで決める。
まちの一人ひとりが高い意識が持てるよう、様々な活動を実施しています。



なにわ淀川花火大会

実行委員会として大会の運営に参画。
「なにわ淀川花火大会」は、大阪のまちをこよなく愛する地元
の周辺企業・団体・商店など地域住民の方々のご協力に
よって企画・運営・実行される「手作りの花火大会」です。
大阪青年会議所は地域社会をより明るく、より豊かにする
ために、地域住民の方々と手を取り合い、大会の運営に
協力させていただくことで、皆様と、より一層の感動を共有
できる花火大会を目指しています。



M-1ボランティア大阪

大阪をもっといい都市にするために。「毎月1回だけ自分
以外の誰かのために行動してみよう」という運動です。
大阪は昔から、自分のことより人のこと・まちのことを考える
人たちの手によって創られてきました。
今の私たちが幸せに暮らせているのも、"自分のことより
相手を思いやる"優しさが受け継がれてきたからです。
次代を担う人々が愛する大阪を引き継いでいけるように、
できることから始めています。





子どもの未来を、 動かせ。

子どもたちにとって最も必要な環境は、多感で柔軟な幼少期に心の原体験を得る機会に恵まれていること。喜びや悲しみ、驚きとともに印象付けられる心の原体験こそが、自らの人生の岐路における思考や判断の軸へと成長していくのです。また、寛容な心と感性そして道徳心によって、子どもたちは自身の考えを的確に発する力を身に付け、おおらかな五感を活かして感性を伸ばし、夢を抱き、その夢の実現に向けた強い意志と行動力を養います。私たちは、このような原体験となり得る機会を提供し、優しさと厳しさでいつも見守り、未来を創り出す強い心の礎を養い、地域一体となって無限の潜在力を大志へと育みます。



大阪すもう連盟会長

朝井 英治 氏

EIJI ASAI

先輩諸氏から受け継がれて来た
60年以上の歴史を誇りに、
力を結集して子どもたちの未来を
動かしてください。

私は、毎年の「わんぱく相撲」大阪市大会において、専門家アドバイザーとして、審判団の幹旋などの運営面で協力してきました。大阪青年会議所の皆さんは、一年ごとに担当者を変えて、この事業を承継し開催し続けておられますが、これは純粋にすごいことだと思います。私としても今後ともこの事業の継続に協力していきたいと考えています。

大阪青年会議所は、60年以上の歴史を持たれ、その中で先輩諸氏から受け継がれて来た伝統の継承などいろいろ大変なことはお有りだとは思いますが、1,000人以上いるメンバー全員の皆さんの力を結集して、引き続き大阪市民が元気になるような事業を実施していただきたいと思います。

大阪青年会議所という歴史ある組織の一員であることの誇りと責任感を持って、これからも大阪を動かし、子どもたちの未来を動かし、社会へ貢献してくださることに期待します。



一般社団法人大阪府トライアスロン協会 理事

古郷 康介 氏

KOUSUKE FURUGOU

初めての「大阪城トライアスロン大会」で、
皆さんの様々な経験やノウハウに
助けられました。
これからも、その若い力で、
社会を動かしてください。

私は今回、初めての開催となった「第一回大阪城トライアスロン大会」の運営サポートを務めさせて頂きました。

初めての大会ということで、すべて一から作り上げていく必要がありましたが、大阪青年会議所の皆さんには、設営に関わる提案など様々な分野での提案やアドバイスを頂きました。さすが皆さん、いろいろな経験とノウハウをお持ちだと思いました。

社会には様々な団体がありますが、その中で、青年会議所の皆さんは、元気とやる気のある若い方が多いので色々な分野での活動とご活躍をこれからも期待しております。

今回の初の開催の際は、本当にお世話になりました。来年もまた開催が決定しております。非常に楽しみです。その際は、お知恵、人材をよろしくお願い致します。本当に、ありがとうございました。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

子どもの未来のために。【2017年度活動報告】

大阪の未来を担う子どもたちのために、
学校教育だけでは難しい子どもたちの自主的に考え行動する力を育む活動を実施。
大きな夢を想い描く感性豊かな未来のリーダーを育成しています。

わんぱく相撲 大阪市大会

小さな力士が熱戦を繰り広げる春の風物詩。

5月、今年もわんぱく相撲大阪市大会がエディオンアリーナ大阪で開催されました。36回を数える本大会は、次代を担う子どもたちの明るく活力ある成長を願い、また地域活性化活動の一環として、大阪青年会議所主催により1982年以降毎年開催されています。対象は大阪市内全ての小学生で、過去35年間の参加児童者はのべ約12万人を数えます。子どもたちにとってはスポーツを通じてコミュニケーションを磨く機会になっており、大阪市民の春の風物詩として親しまれています。



社会人講師事業

子どもの感性を豊かに育む特別授業。

子どもたちの感性を豊かにし、夢を思い描くための一助となるべく、大阪のまちに住み暮らす社会人が大阪市内の小学校で教壇に立ち、それぞれの専門分野や社会人としての心構えを分かりやすく子どもたちに伝えています。年間延べ70授業を目標に、2017年度は大阪にしかない技術や大阪発祥の伝統的な職業など、プロフェッショナルの方々を講師としてお招きし仕事への情熱や流儀について語っていただきました。



第1回 大阪城 トライアスロン大会2017

2017年6月25日(日)開催

これまでは大阪の舞洲で行われていたトライアスロンの国際大会が、今年は、大阪市中央区の大阪城公園で行われ、世界12ヶ国から参加した約300名の屈強なアスリートたちが、夏の大阪城公園で熱いレースを繰り広げました。

〔参加人数〕約300名(エリートクラス / スタンダードクラス合計)

〔参加国数〕12カ国(エリートクラス)





世界を、動かせ。

物理的経済的なグローバル化がますます進展する一方で、内向き思考とも言える人びとの心が世界を覆っています。私たち大阪人のアイデンティティを辿れば、有史以来、多様性を受け止める豊かな感受性で新しいものや未知のものを受け止め、さらに個性ともいえる強みを加えて進化させ、まちを創り、モノを創り出してきました。

世界全体がひとつのマーケットとして事実上の統合が進み、地球の裏側での出来ごとが私たちの生活を脅かすようになった現在、自らの責務を意識し、個性を存分に活かして不屈の精神で新たなものを創り出し、世界をステージと捉えて活躍するリーダーシップあふれる人財を創出していきます。



公益財団法人大阪市都市型産業振興センター
大阪イノベーションハブ 統括プロデューサー

長川 勝 勇 氏

MASAO NAGAKAWA

一丸となって目的を達成しようとしている皆さんの姿勢は素晴らしい。これからの大阪、日本の経済をより良い方向に発展させるリーダーとして皆さんの活動に期待します。

公益財団法人大阪市都市型産業振興センターでは、2017年度4月から9月に開催された「Global Academy Osaka」を大阪青年会議所と共催させて頂きました。その際、私が統括プロデューサーを務める大阪イノベーションハブをセミナー・ワークショップの開催場所として提供致しました。

一緒にワークショップを開いて感じたことは、大阪青年会議所のメンバーの皆さんが一丸となって目的を達成しようとしている姿勢が素晴らしく、こちらのスタッフなども大いに刺激を受けた、ということです。

皆さんの若さを最大限発揮した強力なリーダーシップと、行政や大企業と連携し次世代の大阪経済を牽引する企業人を育成し支援しようとする取り組みは大変素晴らしいと思います。

皆さんには今後も、これからの大阪、日本の経済をより良い方向に発展させるリーダーとして、また文化を世界に向けて発信し、次世代に継承していく中心的な存在として、幅広い活動とご活躍を期待しています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



さくらインターネット株式会社
代表取締役社長/最高経営責任者

田中 邦 裕 氏

KUNIHICO TANAKA

世界のリーダーは、どんどんと若返りが進んでいます。若者を動かし、彼らが元気で活躍できる未来を創っていきましょう。

私は今回、スタートアップ支援に関するプロジェクトにおいて、講師・審査員などを担当させて頂きました。

大阪青年会議所の皆さんの印象は、非常に元気闊達に事業に取り組んでおられるということです。青年経済人である皆さんが、社会全体と若者の未来のことを考え、世界的な視野を持ってこうした活動に従事されていることは大変有意義だと思います。

このスタートアップ支援の面で皆さんに期待するのは、次世代の企業経営者を生み出すとともに、同年代の横のつながりを糧にしながら、上の年代の企業経営者を追い出すくらいに、力をつけてもらいたいということです。

世界のリーダーは、どんどんと若返りが進んでいます。残念ながら日本はいまだに若きリーダーが活躍できていません。居ないわけではなく、世代交代が進んでいないことが原因であり、日本が取り残されないように、どんどんと若返りを促進してもらいたいと思います。

私も若い頃から事業を始めました。青年経済人である皆さんとともに、社会をよくするために、若者を動かし、彼らが元気で活躍できる未来を創るために、一緒に頑張っていきたいと思います。

世界平和のために。【2017年度活動報告】

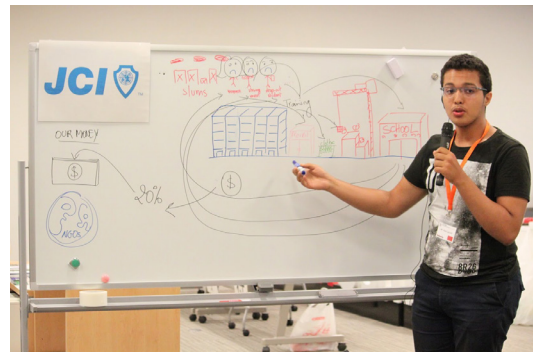
急速にグローバル化が進む世界において、存在感を示す大阪の実現に向けて活動しています。
大阪青年会議所のもつ世界とのネットワークを利用し、
大阪の文化やビジネスを民間の手で世界に発信します。



Global Academy Osaka

社会の課題を若者たちの手で解決していく。

「Global Academy Osaka=GAO」では、大学生と若手起業家が一緒になって、社会に山積する課題の解決に向けたビジネスモデルの構築に取り組んでいます。多彩な講師陣、大阪の歴史や異文化の魅力を体験できるプログラムを用意。さまざまな活動、志を同じくする仲間との出会いを通じて、これからの社会を牽引するリーダーシップを身に付けます。



JCI世界会議 アムステルダム大会

世界各地のJCIメンバーが集結し
次年度JCI会頭を決定する重要会議。

JCIでは毎年、世界各地のJCI代表者が一都市に集い重要課題について決定する「JCI世界会議」を開いています。今年度は11月6(月)日-9日(木)の4日間の日程で、オランダの首都アムステルダムで開催。116の国と地域から4,118名のJCIメンバーが集まり、そのうち日本からは全体の1/3に相当する1,366名が参加しました。8日(水)に行われたコフィ・アナン第7代国連事務総長による基調講演には来場者全員が熱心に聞き入り、また9日(木)夜のJAPANナイトには日本と海外JCメンバー3,215名が参加。次年度JCI会頭はJCIフィリピン代表マーク・ブライアン・リム君に決定しました。



TOYP事業

海外の前途ある優秀な青年を日本に招聘。

「TOYP」とは、The Outstanding Young Persons=傑出した若者たち、素晴らしい活躍を続けている若者たちの意味。JCI大阪は、1980年に開催されたJCI世界会議を通じて、国家の枠組みを超えた民間レベルでの外交の必要性を認識し、1981年、海外の前途ある優秀な青年を日本に招く「TOYPプログラム」を開始しました。2016年度で35年目を迎え、本年2017度は「多彩な個性を融合した協働により恒久的世界平和の実現に貢献する～国際社会の持続的発展を牽引する人財を創ろう!～」をテーマに、近年目覚ましい発展を遂げているアジアの国々から、先端技術を駆使して持続発展可能な課題解決モデルを生み出し、国際社会の問題の解決において実績を生み出している起業家5名を招聘しました。また、大阪のまちからも変革に挑戦する若き起業家を育成するべく、TOYPメンバーの方々との意見交換を行うプログラムを実施。次代を担う若者同士が国境を越えた友情を育みながら、世界の未来について真剣に議論を行いました。

1

11 新年名刺交換会



【開催日】2017年1月11日18:00
【場所】リーガロイヤルホテル大阪
【主催】一般社団法人大阪青年会議所
【共催】大阪青年会議所セネター会
【参加者】大阪青年会議所現役会員・OB
【巻頭挨拶】第67代 岡部倫典理事長
【年間スローガン発表】「ソフトパワーでさらなる未来を輝かせよう」
【来賓挨拶】山本博史先輩（セネター）・日本JC会頭 山本樹育特別顧問
【乾杯発声】第13代理事長 西村五郎先輩

14 池田会議



【開催日】2017年1月14-15日 【場所】不死王閣
【参加者】全現役会員
【会議内容】年間活動目標「創力あふれるまち大阪の実現」に基づくディスカッション
【同時開催】1月度例会（講師：川口盛乃氏）

20 京都会議



【開催日】2017年1月20日 【場所】国立京都国際会館
【参加者】全国青年会議所全メンバー
【今年度テーマ】「教育再生と経済再生による誰もが夢を描ける日本への回帰」
【メインフォーラム】「教育再生フォーラム」講師：自由民主党幹事長代行 衆議院議員 下村博文氏（元文部科学大臣）

1月～12月 社会人講師事業
小学校や福祉事業団体と協力してプロフェッショナルによる事業を開催。

2

17 金沢会議



【開催日】2017年2月17-19日
【場所】北國新聞赤羽ホール（石川県金沢市）
【参加者】アジア太平洋地域の各国青年会議所代表（国際会議）
【会議テーマ】「一緒に世界を変えよう！」
～ UN SDGs への取り組み～
【特別講演】寛仁親王妃信子殿下
【基調講演】独立行政法人国際協力機構（JICA）
【フォーラムゲスト】渡部陽一氏（戦場カメラマン）

20 2月度公開月例会



【開催日】2017年2月20日
【場所】帝国ホテル大阪3階 孔雀の間
【講師】金美齡氏（元台湾総督府国策顧問）

2～11月 各種セミナー

メンバーの資質向上を目的としたセミナー

3

22 3月度月例会



【開催日】2017年3月22日
【場所】帝国ホテル大阪3階 孔雀の間
【講師】高田明氏（ジャパネットたかた創業者）

4

8 入会式・新人セミナー



【開催日】2017年4月8日10:30
【場所】グランフロント大阪 ナレッジシアター
【参加者】大阪青年会議所新入会員・現役会員
【挨拶】岡部倫典理事長
【ビデオレター】吉村洋文大阪市長
【新人セミナー講演】安藤忠雄氏（建築家）

13 4月度月例会



【開催日】2017年4月13日
【場所】帝国ホテル大阪3階 孔雀の間
【講師】石黒浩氏（ロボット工学者・大阪大学工学部教授）

4～7月 やってみなカフェ（大阪市内）

5

5 第36回わんぱく相撲大会



【開催日】2017年5月5日
【場所】エディオンアリーナ大阪（大阪府立体育会館）

19 2017年度 北地域8LOM合同例会



【開催日】2017年5月19日
【場所】帝国ホテル大阪3階 孔雀の間
【参加 LOM】池田、茨木、大阪、吹田、摂津、高槻、豊中、箕面
【基調講演】橋下徹氏（元大阪府知事・元大阪市長）

20 整肢学院事業



【開催日】2017年6月20日
【場所】社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会 大阪整肢学院
【実施内容】「夢を乗せて世界一周」をテーマに学院の児童に楽しんでもらえるブースやプログラムを実施しました。
【参加人数】児童：82名 職員：74名

5～9月 GAO イノベーションハブ

6

8 ASPACウランバートル



【開催日】2017年6月8日-11日
【場所】モンゴル・ウランバートル
【会場】ウランバートル ホテルシャングリラ
【実施内容】JCI Asia Pacific Area Conference (JCI-ASPAC) はJCIのアジア太平洋地域の会員が集う国際会議です。個と個の交流、世界と地域の交流を通しての有益な情報交換、相互文化理解を目的として開催。今年度はモンゴルの首都ウランバートルで開催、JCI大阪からも109名が参加しました。

14 6月度月例会

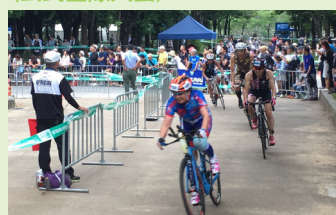


【開催日】2017年6月14日
【場所】帝国ホテル大阪3階 孔雀の間
【講師】川田十夢氏（AR 技術者）

21 岡山大阪交歓会

姉妹LOMである岡山青年会議所との交流会

25 大阪城トライアスロン2017（公式国際大会）



【開催日】2017年6月25日
【場所】大阪城公園
【参加人数】約300名（エリートクラス/スタンダードクラス合計）
【参加国数】12か国（エリートクラス）

6～7月 Ultra Boardmember Project

理事選挙に対するメンバーの理解を深める事業

7

2 Global Academy Osaka(GAO)



【開催日】2017年7月2日
【場所】グランフロント大阪ナレッジキャピタルタワー
【実施コース】起業家コース・学生コース
【講師】鈴木吉朗氏（株式会社リンクス代表取締役）
金沢崇氏（日本テクノロジーベンチャーパートナーズ投資担当取締役）

8 近畿地区大会

尼崎アルカイクホール

22 サマーコンファレンス2017



【開催日】2017年7月22日 【場所】バジフィコ横浜
【メインフォーラム】「日本再生フォーラム～日本を変えるのはオレたちだ!!～」
【スペシャルゲスト】第97代内閣総理大臣 安倍晋三氏
【その他のフォーラム】
・サマコン TV（吉本興業・サイバーエージェント・日本青年会議所のトリプルコラボ）
・超生産性向上大賞

26 月例会

帝国ホテル

7～8月 M-1ボランティア

御堂筋、淀川河川敷

8

4 2017近畿アンリミテッド・パラ陸上

長居陸上競技場

8 第29回なにわ淀川花火大会



8 OB 現役交換会



【開催日】2017年8月8日18:30
【場所】リーガロイヤルホテル大阪

8月21日～9月22日 理事選挙

23 大阪ブロック大会（和泉大会）

28 第66回全国大会 埼玉中央大会



【開催日】2017年9月28日～10月1日 【場所】埼玉県
【大会テーマ】「運命共同体」
【参加者】全国青年会議所メンバー（約15,300名）
【ライブゲスト】ウルフルズ

10

7 衆議院議員総選挙 公開討論会



【開催日】2017年10月7日19:00～20:50
【場所】大阪市立北区民センター2F ホール
【参加パネリスト（受付順）】
社会民主党 元衆議院議員 服部良一氏
日本共産党 前衆議院議員 清水忠史氏
自由民主党 前衆議院議員 中山泰秀氏
公明党 参議院議員 石川博崇氏
日本維新の会 前衆議院議員 浅田均氏

11

6 世界会議 アムステルダム大会



【開催日】2017年11月6日 【場所】アムステルダム（オランダ）

21 月例会

帝国ホテル

12

4 会員大会

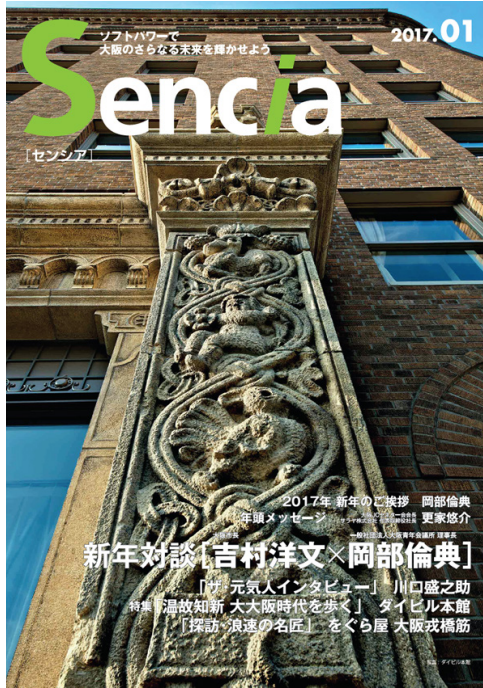


リーガロイヤルホテル

広報誌「Sencia (センシア)」

年6回発行(奇数月)

2017年度は、「ソフトパワーで大阪のさらなる未来を輝かせよう」の年間テーマの下、特に広報活動の充実に重点を置き、基幹メディアとなる広報誌「Sencia(センシア)」を全面的にリニューアルして、1月、3月、5月、7月、9月、11月の隔月刊・年6回を発行。誌面においては、特別連載企画として、大阪が都市政策、インフラ整備、経済、文化、人口などのあらゆる面で日本最大の都市としての活力と繁栄を誇った「大大阪時代」(1920-1930年代)を振り返りその活力の源泉を探り未来に活かす総力特集「温故知新—大大阪時代を歩く」を始めとして、岡部理事長と各界の著名人が大阪の現在と未来について語り合う「巻頭理事長対談」、大阪の誇りとする「名匠」の業を探る「探訪・浪速の名匠」、学術、文化、芸能面で活躍する大阪人をインタビューした「ザ・元気人インタビュー」、さらに食の老舗と伝統の一品を紹介する「この店、この一品」など、広範囲にわたる取材・撮影、またハイクオリティの編集・デザインにより充実のコンテンツを毎号展開しました。



広報誌「Sencia(センシア)」2017年度掲載コンテンツ

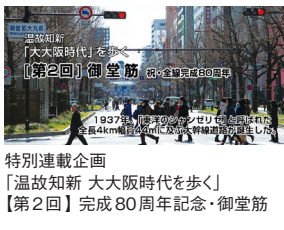
2017/1 (1月10日発行) ※発行7,000部

- 巻頭対談「吉村洋文氏(大阪市長)×岡部倫典理事長」
- 特別連載企画「温故知新 大大阪時代を歩く」【第1回】ダイビル本館
- 「ザ・元気人インタビュー」川口盛之助氏(日経BP未来研究所アドバイザー)
- 「探訪・浪速の名匠」をぐら屋 大阪戎橋筋
- 「この店、この一品」旧ヤマト 中之島洋館



2017/3 (3月21日発行) ※発行7,000部

- 巻頭対談「金美齢氏(元台湾総督府国策顧問)×岡部倫典理事長」
- 特別連載企画「温故知新 大大阪時代を歩く」【第2回】完成80周年記念・御堂筋
- 「ザ・元気人インタビュー」片岡リサ氏(箏演奏家)
- 「探訪・浪速の名匠」カメラのナニワ
- 「この店、この一品」ガスビル食堂



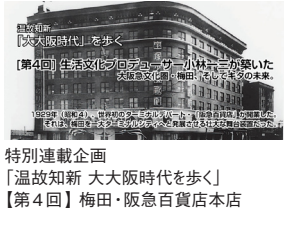
2017/5 (5月18日発行) ※発行7,000部

- 巻頭対談「安藤忠雄氏(建築家)×岡部倫典理事長」
- 特別連載企画「温故知新 大大阪時代を歩く」【第3回】通天閣&天王寺動物園
- 「ザ・元気人インタビュー」高田明氏(ジャパネットたかた創業者)
- 「ザ・元気人インタビュー」石黒浩氏(ロボット工学者・大阪大学工学部教授)
- 「探訪・浪速の名匠」BAR 瀧
- 特別企画「我が心の北新地」
- 「この店、この一品」総本家更科



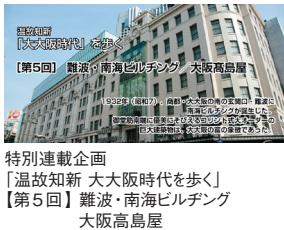
2017/7 (7月21日発行) ※発行7,000部

- 巻頭対談「川田十夢氏(AR開発者)×岡部倫典理事長」
- 特別連載企画「温故知新 大大阪時代を歩く」【第4回】梅田・阪急百貨店本店
- 「探訪・浪速の名匠」本家國重刃物店
- 特別企画「上方文化を支えた、町人たちのエネルギー」天神橋筋商店街×天満天神繁昌亭
- 「この店、この一品」シャンデリアテーブル



2017/9 (9月19日発行) ※発行7,000部

- 巻頭対談「田坂広志氏(多摩大学大学院教授)×岡部倫典理事長」
- 特別連載企画「温故知新 大大阪時代を歩く」【第5回】難波・南海ビルヂング／大阪高島屋
- 「探訪・浪速の名匠」大阪フィルハーモニー交響楽団
- 「ザ・元気人インタビュー」千原せいじ氏(芸人)
- 「この店、この一品」浪速割烹 崑川



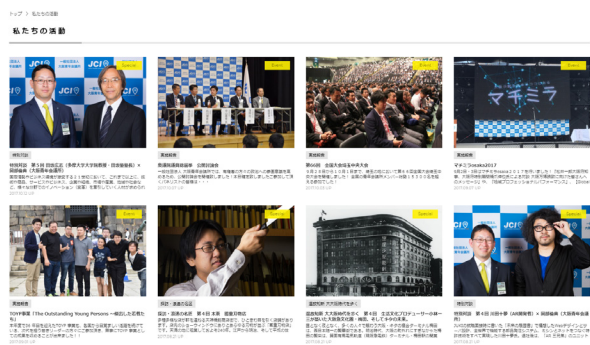
2017/11 (11月21日発行) ※発行7,000部

- 巻頭対談「安藤忠雄氏(建築家)×岡部倫典理事長」
- 特別連載企画「温故知新 大大阪時代を歩く」【第6回】大阪城天守閣／大阪府庁本館／旧大阪放送会館
- 「探訪・浪速の名匠」株式会社金剛組
- 「ザ・元気人インタビュー」寺尾仁志氏(シンガーソングライター)
- 「この店、この一品」うさみ亭マツバヤ



公式HPによる情報発信

公式HPにおいても活発に情報を発信し、JCI大阪の実施事業の告知・活動報告と共に、広報誌コンテンツを Web記事として同時展開し、より広い層への発信を行いました。またこれらのコンテンツはHP上の活動アーカイブとしても機能しています。



公式Facebookによるリアルタイム情報発信

さらに、JCI大阪の公式Facebookによるリアルタイムの活発な情報発信も行い、SNS世代の若い層に対しより広範囲な広報活動を展開しました。



OSAKAを代表する オピニオンリーダーとして、 一歩先の未来を見据え、 日本、そして世界に 先駆ける活動を。

一般社団法人大阪青年会議所 2017年度理事長

岡部 倫典



本年度実施した事業の背景と内容

ITの普及と発展は私たちに驚異的な利便性をもたらしました。しかし、その一方でそれらを最大限に活用すべき私たちはその利便性に夢中になり、IT をひとつのツールとして活用すべき人としての立ち位置を見失い、いつしか進歩のスピードに追いつけなくなりつつあるのが現状です。そこで、改めて無限の価値を生み出す人の力を見直す必要があると考えました。また、大阪という都市の在り方や人の物事を考える視野を広げる変革に挑戦しました。内容としては、様々な社会環境から教育格差が生じつつある子どもへの貧困問題への解決、大阪人としてのアイデンティティを兼ね備えた将来、世界で活躍する学生や企業家の育成、多くの市民、団体とともにまちの課題解決プログラム構築、大阪というまちの発信、そして、組織の新たな仕組み作りを行いました。

本年度の活動の総括

大阪世年会議所のメンバーには、人の力ということに焦点を置き、ITやAIには決して果たせない役割が人にはあること、未来を創り出す人の力の偉大さを感じてもらえたと実感しています。また、組織としては、人びとと企業、公益団体や行政などそれぞれの立場の違いを超えて、各々の力を融合させ、形式に捉われない独創的なアイデアでまちの持続的な発展させていくことが、今後の大阪、日本、そして、世界を豊かにしていくことにつながることに共感をして頂けたと思います。

組織のトップとして

どのような考えに基づき行動してきたか

まずは、原点に立ち戻り、その事柄の成り立ち、歴史を熟知したうえで、大阪の伝統を守りつつ、新たなものを創り出す大阪人としてのチャレンジ精神を大事に行動して参りました。また、組織が10年、100年と続いていくためには、記録というものに拘り、また、それらをより使いやすくてできる仕組みづくりを中心に行ってきました。

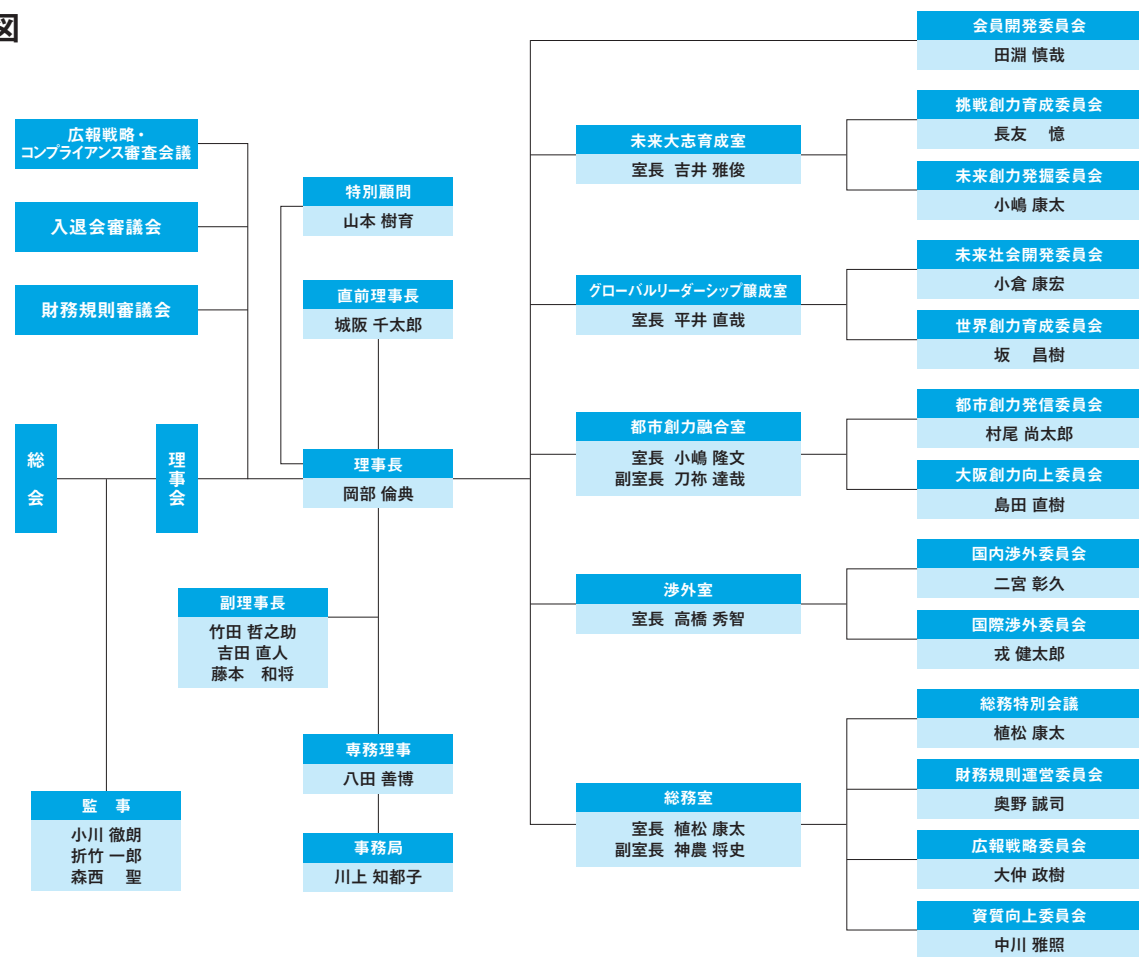
今後の大阪青年会議所のあるべき姿

大阪青年会議所は。日本全国、そして世界中においても、LOMという単位では一番所属人数が多い青年会議所です。ただ、カウンターパートナーである大阪市民279万人と比べると、その比率は僅か0.035%にすぎません。中立的な立場でまちをよりよく進化させていくためには、もっと多くの市民、団体、企業、そして、行政を巻き込んで活動をしていく必要があると思っています。あらゆる団体のオピニオンリーダーとして、一歩先の未来を見据え、大阪、日本、世界に先駆ける活動をして頂きたいと思います。また、青年会議所の中では、時流に先駆けた大阪青年会議所ができる組織の仕組み創りをしていただき、会員がこの活動により誇りと愛着を持てる団体へと進化して頂きたいと思います。

大阪の未来への展望

世界ではグローバル化からナショナリズム化に変化しつつある、ただ、情報はさらにボーダレス化が進み、容易にやり取りが行える社会になってきています。国内では東京一極集中と独自の地方行政の発展の言葉が先行していますが、大阪はそもそも独自のアイデンティティや官に頼らず民の力でまちづくりを行ってきたまちです。日本の中の大阪という見方からまずはアジアの中の大阪という発想に一人ひとりが原点回帰すべきだと思います。大阪はよくよく見れば、天下の台所ともいわれた歴史、伝統を守ってきた産業、文化が数多く存在します。市民一人ひとりが、それらを熟知して、現代におけるITを駆使して、世界に向けて発信することができれば、さらなる訪日外国人の増加、そして、経済の活性化につながると考えます。日本は人口減少が始まりつつありますが、世界で見れば人口は増加しています。その中でもアジア圏は大きく進化している都市が増加しています。さらに多くの人々とのチャンスを増加させるためには、私たちが固定概念にとらわれることなく、多様性を受け止めて、大阪人としての力を発揮して、人、モノ、情報が集まるアジアのハブ都市になることが、今後の大阪が繁榮していくことだと考えます。

組織図



理事・役員一覧

理事・役員一覧	<div>理事長</div>  <div>岡部 倫典</div>	<div>直前理事長</div>  <div>城阪 千太郎</div>	<div>特別顧問</div>  <div>山本 樹育</div>	<div>副理事長</div>  <div>竹田 哲之助</div>	<div>副理事長</div>  <div>吉田 直人</div>	<div>副理事長</div>  <div>藤本 和将</div>	<div>専務理事</div>  <div>八田 善博</div>	
	<div>監 事</div>  <div>小川 徹朗</div>	<div>監 事</div>  <div>折竹 一郎</div>	<div>監 事</div>  <div>森西 聖</div>	<div>未来大志育成室</div>  <div>吉井 雅俊</div>	<div>グローバルリーダーシップ醸成室</div>  <div>平井 直哉</div>	<div>都市創力融合室</div>  <div>小嶋 隆文</div>	<div>都市創力融合室</div>  <div>刀祢 達哉</div>	<div>渉 外 室</div>  <div>高橋 秀智</div>
	<div>総務室・総務特別会議</div>  <div>植松 康太</div>	<div>総 務 室</div>  <div>神農 将史</div>	<div>会員開発委員会</div>  <div>田淵 慎哉</div>	<div>挑戦創力育成委員会</div>  <div>長友 億</div>	<div>未来創力発掘委員会</div>  <div>小嶋 康太</div>	<div>未来社会開発委員会</div>  <div>小倉 康宏</div>	<div>世界創力育成委員会</div>  <div>坂 昌樹</div>	<div>都市創力発信委員会</div>  <div>村尾 尚太郎</div>
	<div>大阪創力向上委員会</div>  <div>島田 直樹</div>	<div>国内渉外委員会</div>  <div>二宮 彰久</div>	<div>国際渉外委員会</div>  <div>戎 健太郎</div>	<div>財務規則運営委員会</div>  <div>奥野 誠司</div>	<div>広報戦略委員会</div>  <div>大仲 政樹</div>	<div>資質向上委員会</div>  <div>中川 雅照</div>		

■発行 一般社団法人大阪青年会議所 〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番30号 オーク四番街401号 TEL 06-6575-5161／FAX 06-6575-5163 <http://www.osaka-jc.or.jp>
 ■発行日 2018年3月16日 ■企画・制作 株式会社オン・ザ・デスク・インターナショナル ■印刷・納品 株式会社グラフィック